

報道関係者各位

株式会社 DISCO

17 卒学生の参加インターンシップ ピークは2月、半日・1日型プログラムが約半数を占める結果に。 ～キャリアス就活 2017 学生モニター特別調査レポート（2016年4月発行）～

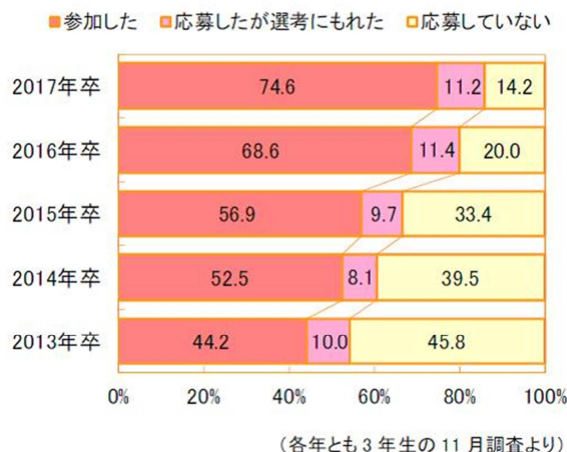
株式会社 DISCO（本社：東京都文京区、代表取締役社長：夏井丈俊）は、2017年3月卒業予定の全国の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）を対象に、インターンシップへの参加に関する調査を行いました。（調査時期：2016年3月15日～24日、回答数：664人）。

日本経団連「倫理憲章」の見直し（2011年3月改定）により、インターンシップのあり方が厳格化されてから5年が経過しました。ハードルが上がったことで一旦は実施企業が減少しましたが、受け入れ態勢が整ったことで再び増加に転じ、さらに昨年の採用活動時期の繰り下げで、実施企業は急激に増えています。学生との早期の接点としても活用の進むインターンシップについて、参加学生の意識や満足度はどうだったのか。また、就職意向などに影響はあったのか。インターンシップ参加経験のある2017年卒学生モニターを対象に、参加したインターンシップの内容や感想、参加企業への就職志望度などを調査し、インターンシップの影響について分析・考察しました。

【主な調査項目】

1. 参加したインターンシップの内容（図表 1-1、1-2）
2. インターンシップの情報を探し始めた時期（図表 2-1、2-2）
3. インターンシップ先を探す際に重視した点
4. インターンシップ参加前後の就職志望度の変化
5. インターンシップ参加企業からの優遇策（図表 3）
6. インターンシップの満足状況
7. インターンシップ参加企業への就職志望度
8. インターンシップ参加企業への就職エントリー状況
9. インターンシップに参加しやすい時期・期間
10. 長期実践型の有給インターンシップの経験

インターンシップ参加経験 【参考】



「調査概要」

調査対象：2017年3月卒業予定の全国の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）のうち、1社以上のインターンシップ参加経験者

回答数：664人（文系男子207人、文系女子224人、理系男子146人、理系女子87人）

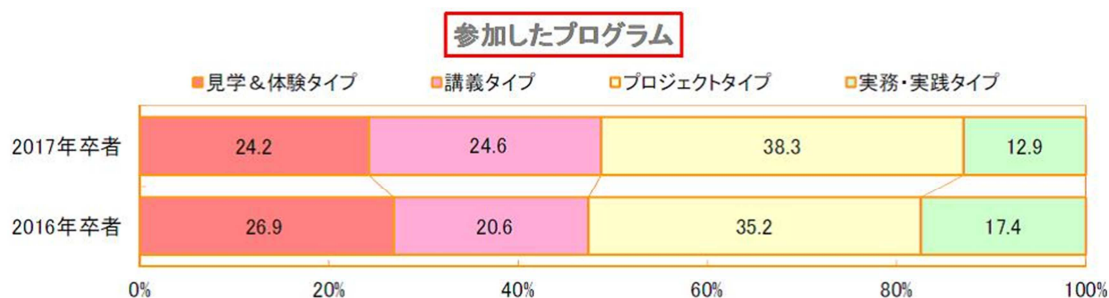
調査方法：インターネット調査法

調査期間：2016年3月15日～24日

サンプリング：キャリアス就活2017学生モニター（2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」）

調査詳細はこちら：<http://www.disc.co.jp/column/?p=3881>

図表1-1 参加したインターンシップの内容



* 合計が100%になるように再集計し、占める割合を算出。以下同じ



(注)各プログラムの違い
 ●見学&体験タイプ =実際の職場で業務について説明を受け、仕事を少しだけ体験できる。
 ●講義タイプ =業界・企業・仕事についての講義のなかで、その企業の事業内容を理解し、「働く」について学ぶ。
 ●プロジェクトタイプ =学生でチームを組み、その企業の事業にかかわる課題に取り組む。
 ●実務・実践タイプ =各部署に配属され、スタッフの一人として業務を任せられる。
 ※複数のプログラムを組み合わせて実施する場合には、主なもの1つを選択



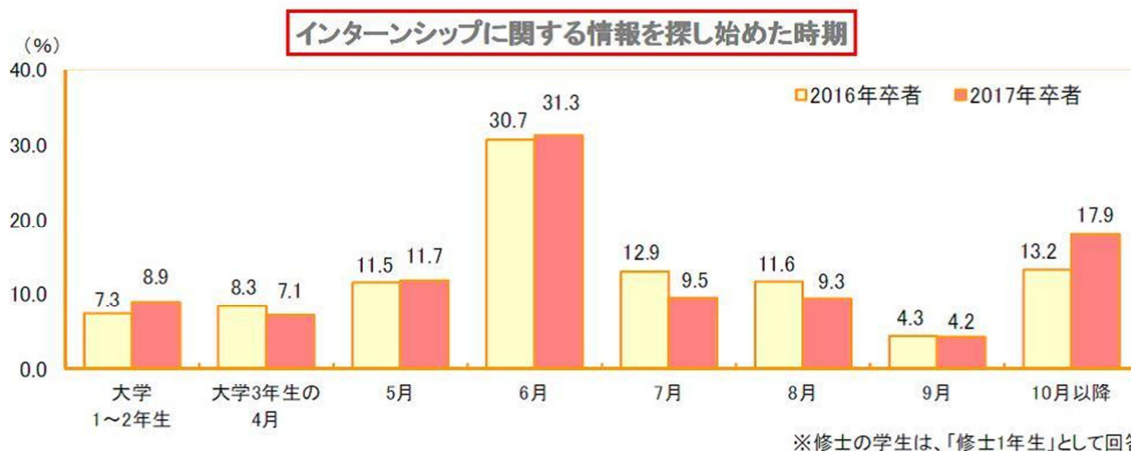
資料出所：キャリアス就活 2017 学生モニター特別調査レポート (2016年4月発行)

図表 1-2 参加したインターンシップの内容



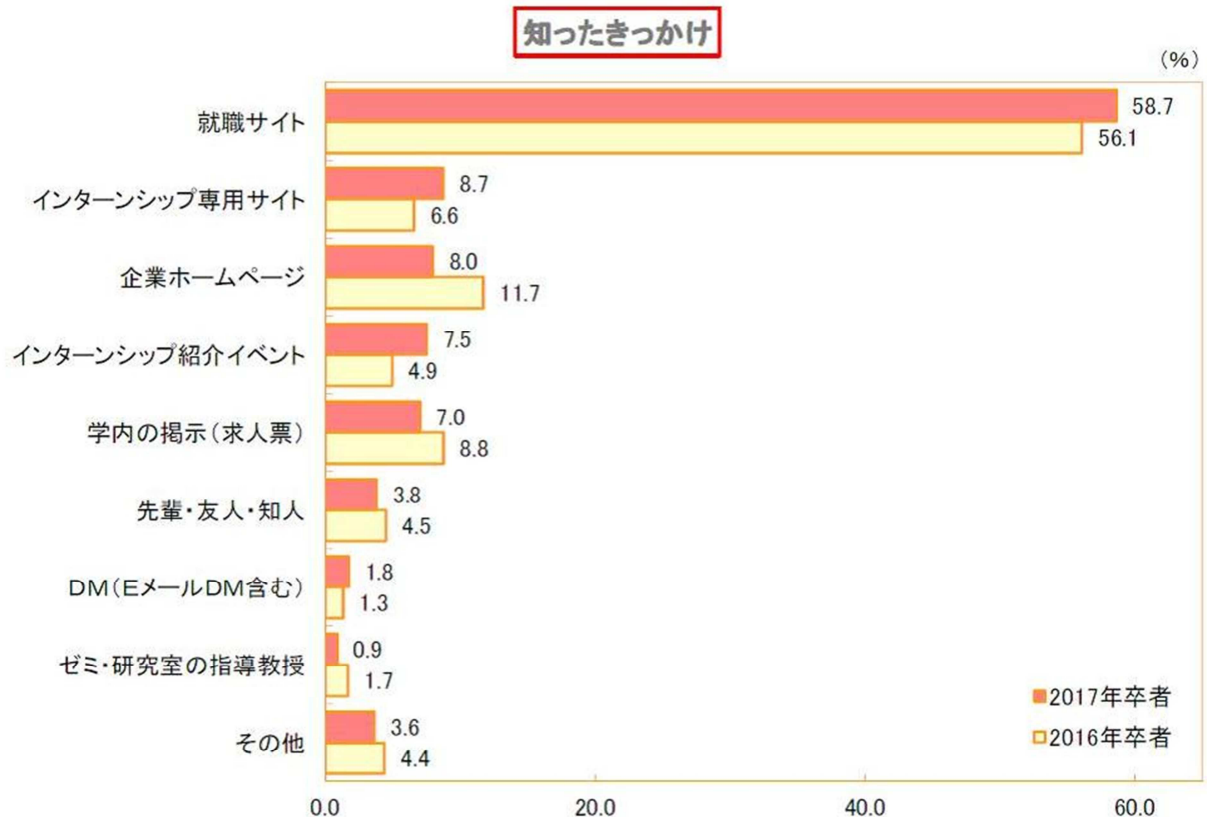
資料出所：キャリアス就活 2017 学生モニター特別調査レポート（2016年4月発行）

図表 2-1 インターンシップの情報を探し始めた時期



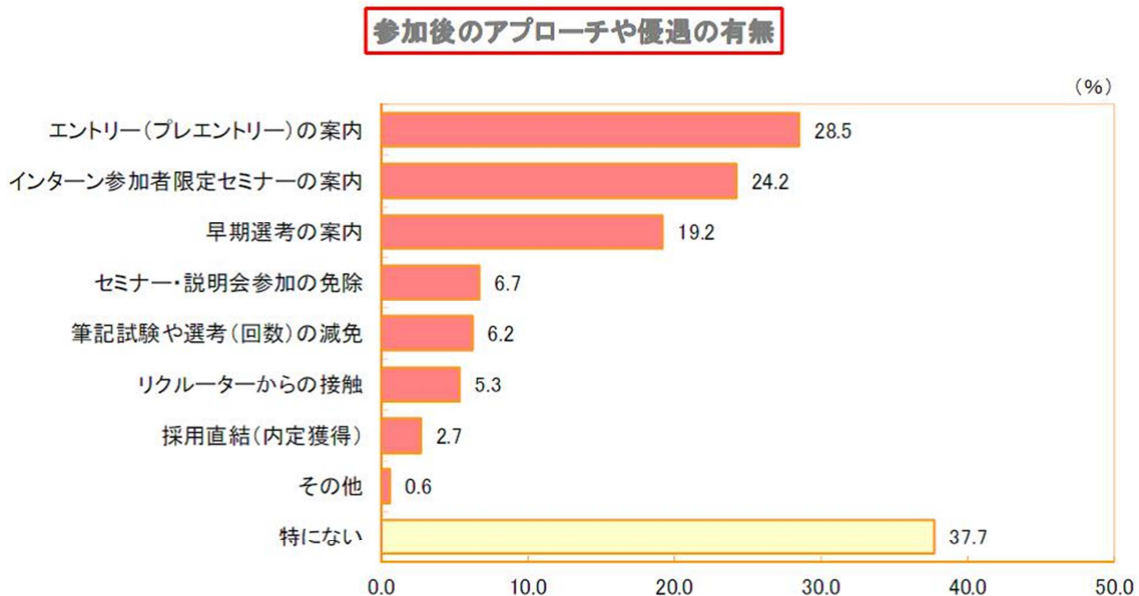
資料出所：キャリアス就活 2017 学生モニター特別調査レポート（2016年4月発行）

図表2-2 インターンシップの情報を探し始めた時期



資料出所：キャリアス就活 2017 学生モニター特別調査レポート（2016年4月発行）

図表3 インターンシップ参加企業からの優遇策



資料出所：キャリアス就活 2017 学生モニター特別調査レポート（2016年4月発行）